

Oral DRS (口腔不快感・異常感評価尺度)

マニュアル

Tokyo Medical and Dental University
Oral Discomfort/Dysesthesia Rating Scale

Oral DRS による標準的な評価は、患者の過去 1 週間の状態について、半構造化面接により行われる。評価尺度は A. 感覚尺度 (口腔不快感・異常感の重症度評価)、B. 障害尺度 (口腔不快感・異常感による社会生活機能の障害度の評価)、および C. 視覚的アナログ尺度(VAS) (自覚的重症度・改善度の視覚的評価)、の 3 セクションより構成される。

A. 感覚尺度では口腔不快感・異常感の性質により 7 つのカテゴリーに分類された項目について評価する。

- A1. 異物感・付着感
- A2. 滲出感・湧出感
- A3. 牽引感・締め付け感
- A4. 動き感
- A5. 不適合感
- A6. 痛み
- A7. 温覚・味覚変化

評価者はそれぞれの項目についてのアンカーポイントに従い、重症度を 0 ~5 点で評価する。評価者が近接するアンカーポイントの間であると判断した場合、1.5 点、3.5 点などの中間点を付けることは可とする。

B. 障害尺度では患者の 4 つの社会生活機能の障害度について評価する。

- B1. 摂食
- B2. 構音
- B3. 仕事
- B4. 対人活動・趣味活動

評価者はそれぞれの項目についてのアンカーポイントに従い、障害度を 0 ~5 で評価する。A. 感覚尺度と同様に中間点を可とする。B1 および B2 については口腔症状を原因とする障害度を評価するが、B3 および B4 については口腔症状を原因とするものに限定せずに評価する。

C. 視覚的アナログ尺度(VAS)では、主観的な重症度、および改善度を患者自ら 0-100mm の間で評価する。

- C1. 重症度
- C2. 改善度

評価者は患者に棒線を示し、ペンでマークしてもらう。

各項目評価のポイント

評価尺度のアンカーポイントを参考にして、各項目を以下のように質問し評価する。

A. 感覚尺度

A1. 異物感・付着感

質問：「口の中に何か異物がある・何かがくっついていると感じますか？」。

患者は「べとべとしたもの」「ざらざらしたもの」「釘」「ワイヤー」「歯の間に詰まっている」などと表現する。

3: 中等度では、患者は頻回もしくは常に異常感覚を感じ、煩わしいが耐えうる様子である。歯磨きをする、唾を吐きだす、布で拭う、ガムを噛む、などの処置でいくらか改善感を感じる。

A2. 滲出感・湧出感

質問：「何かがじわじわと出てくる、どんどん湧き出す、と感じますか？」

患者は「唾液」、「泡」、「粘液」、「砂のようなもの」が出てくると表現する。

3: 中等度では、患者は頻回もしくは常に異常感覚を感じ、煩わしいが耐えうる様子である。マウスピースを利用するなど、何らかの独自の方法で改善感を得る。

A3. 牽引感・締め付け感

質問：「口の中が締め付けられたり、引っ張られたり感じますか？」 「歯が浮くように感じますか？」

A4. 動き感

質問：「口の中で何かがうごめく感じはありますか？」 「何かが流れている、巡っていると感じますか？」 「歯茎の中に虫がいるように感じますか？」

A5. 咬合不全・歯列不全感

質問：「噛み合わせが悪いと感じますか？」 「歯がフィットしていないと感じますか？」

「顎が横にずれている」、「歯が大きくなっていて合わない」などの感覚も本項目に含める。

A6. 痛み

質問：「口の中が痛みますか？」 「刺される、裂ける、ヒリヒリする、などのような痛みはありますか？」

A7. 温覚・味覚変化

質問：「口の中に何も入れてないのに、冷たい・温かい・熱いと感じることはありますか？」 「口の中に何も入れてないのに味がする、苦い・酸っぱい・辛い・甘い・しょっぱいということはありませんか？」

本項目では「何も口に入れていないことを前提とする。単なる温覚消失、味覚消失は含めない。

B. 障害尺度

B1. 摂食

質問：「口の症状のせいでものが食べ辛と感じますか？」「口の症状のせいで、食べるものの内容が変わりましたか？」

患者が「くつつくのでべとべとするものは避けるようになった」という場合は2：軽度、以上をつける。

B2. 構音

質問：「口の症状のせいで、しゃべり辛いことはありますか？」

B3. 仕事

質問：「仕事はしっかりできていますか？」「家事はしっかりできていますか？」「勉強はしっかりできていますか？」「よくできているときを100%とすると、この1週間は平均で何%ですか？」

本項目では口腔症状に起因するものに限定せずに評価する。社会人・主婦（主夫）・学生など、患者それぞれの社会的立場における仕事（義務）の達成度を評価する。

B4. 対人活動・趣味活動

質問：「仕事以外のことはしっかりできていますか？」「人の誘いを断らずにでかけますか？」「音楽を聴いたり読書をしたり、自分の好きなことはできていますか？」「よくできているときを100%とすると、この1週間は平均で何%ですか？」

本項目では口腔症状に起因するものに限定せずに評価する。仕事以外のこと、すなわち患者個人の社会的義務以外の活動についての達成度を評価する。

C. 視覚的アナログ尺度 (VAS)

本項目では、患者に100mmの棒線を提示して、下記の質問をして患者自ら評価してもらう。C2. 改善度は治療開始以後に使用する。

C1. 重症度

質問：「あなたの今までの経験を考慮し、症状の重症度はどの程度ですか？」
「こちら(0mm)を全く症状がないとし、こちら(100mm)を考え得る限り最も悪いとすると、この1週間の平均ではどのあたりですか？」

C2. 改善度

質問：「もともとの治療前と比べて、症状はどのくらいよくなりましたか？もしくは悪くなりましたか？」「まったく変わらない場合はちょうど真ん中です」

※ Oral DRS は東京医科歯科大学精神行動医科学分野の上里らにより開発されています。論文等に引用する場合は下記のようにお願い致します。

Uezato *et al.* *BMC Psychiatry* 2014, 14:359

Oral Dysesthesia Rating Scale: A tool for assessing psychosomatic symptoms in oral regions

Article URL: <http://www.biomedcentral.com/1471-244X/14/1696>

ダウンロード: <http://www.tmd.ac.jp/med/psyc/research/oral-drs.html>

連絡先: uezapsyc@tmd.ac.jp